

KVK シングルレバー式混合栓用分岐金具 施工説明書

ZK6061PN

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

KVK取り付け対象混合栓 KM6061EC・KM6071EC・KM6092EC・KM6101EC・KM6111EC・KM6161EC・KM6211EC等
※KM708G・KM6081EC・KM6091EC・KM6121EC・KM6131EC・KM6361EC・KM6381EC等は取り付け対象外です。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
 - ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

<p>警告</p> <p>この絵表示は、してはいいない「禁止」の内容です</p>	<p>給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。</p> <p>85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工および接合等の改造はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>他所の水栓の使用や、食器洗い乾燥機・浄水器・整水器などの作動により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇するおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p>
	<p>この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です</p>	<p>水栓金具の取りはずしは止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。</p> <p>いきなり取りはずしますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>注意</p>	<p>固定ナットの取りはずしや取り付けの際は、必ず水栓本体が共回りしないように、固定しながら行ってください。また、配管がねじれないように注意してください。</p> <p>配管接続部が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>食器洗い乾燥機等に接続する場合は、接続機器の使用温度を確かめてから接続してください。</p> <p>指定使用温度以外の温度で使用しますと、接続機器が破損するおそれがあります。</p>	<p>凍結が予想される際は、配管の水抜きと水栓金具の水抜き操作後、エルボ・分岐止水栓を取りはずしてください。</p> <p>凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

1 ページ

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A= (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+0.1MPa(動水圧) 最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+0.1MPa(動水圧) 最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ④ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑤ 給湯器の給湯温度は、安全のため60°C以下の設定をおすすめします。
- ⑥ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑦ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑧ 本製品は改造(加工および接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑨ 通水検査をしておりますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。
- ⑩ 分岐止水栓は水側のみ接続できます。
- ⑪ 本製品は座付ナットを締め付けて本体を固定する水栓に取り付けてください。

寸法図 / 分解図

寸法図 仕様によって異なる場合があります。

分解図 この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

1	分岐金具本体
2	パッキン

2 ページ

取り付け手順 1

1 配管の操作
配管の元栓を閉め、湯水が出ないことを確認してください。

2 既存の本体上部の取りはずし

- ① 【キャップ無しハンドルの場合】レバーハンドルを真横に取りはずします。
【キャップ付きハンドルの場合】キャップを取りはずし、ねじをゆるめレバーハンドルを取りはずします。
- ② スパナ等で固定ナットをはずします。
- ③ カートリッジを取りはずし、カートリッジ底面のOリング(2個)が組み付いていることを確認します。

【△注意】・カートリッジは無理にはずさないでください。破損するおそれがあります。カートリッジがはずしにくい場合は、カートリッジを細かくゆらしながらゆっくりはずしてください。
・本体が共回りしないように本体を固定しながら行ってください。配管接続部が破損し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。吐水口を取り持てははずしますと破損のおそれがありますので、これらは持たないでください。

3 分岐金具の取り付け
分岐金具底面にパッキン(2か所)があることを確認してください。正面シールを手前に向けた状態で、固定リングをスパナなどで締め付け固定します。この時、分岐金具のピン(凸)が水栓本体のピン穴(凹)にはまるように締め付けてください。

【△注意】・本体が共回りしないように、固定しながら行ってください。配管接続部が破損し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。吐水口を持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。
・水栓金具のピン(凸)を水栓本体のピン穴(凹)に確実にはめてください。はまっていない状態で固定すると、止水しなかったり漏水の原因になります。
・分岐金具のピン(凸)で水栓本体の分岐金具取付部(内側)を傷つけないように固定リングを締め付けてください。傷がつくと漏水の原因になります。
・締め付けは二面幅に合わせて確実に行ってください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

【お願い】固定リングを締め付ける際は、あて布等をして傷つかないようにしてください。

3 ページ

4 既存本体上部の取り付け

- ① Oリング(2個)がカートリッジの底面に組み付いていることを確認します。
- ② カートリッジを分岐金具に取り付けます。
- ③ スパナ等で固定ナットを締め付けます。
- ④ 【キャップ無しハンドルの場合】レバーハンドルを「カチッ」となるまではめ込みます。取り付け後、ハンドルがはずれないことを確認してください。
【キャップ付きハンドルの場合】レバーハンドルをねじで取り付け、キャップをはめます。

【△注意】・締め付けは二面幅に合わせて確実に行ってください。締め付けトルクの目安は約1750N・cmです。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。
・本体が共回りしないように、固定しながら行ってください。配管接続部が破損し、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。吐水口を持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

4 分岐止水栓の取り付けの取り付け

分岐止水栓の使用上のご注意

- ・分岐止水栓は水側のみ接続できます。(分岐止水栓を取り付ける際は、販売店・取付店またはKVK修理受付センターにご相談ください)
- ・接続の場合は、接続する機器(食器洗い機等)の給水条件及び施工上の注意事項をよくご確認ください。
- ・分岐金具以降に接続された設備については保証の対象外となります。

分岐止水栓を取り付ける際は、分岐止水栓の説明書を参照してください。分岐止水栓がカウンター等に干渉する場合は、エルボ(ZS506[別売])等を使用して干渉しないようにしてください。

【△注意】ジョイントにエルボ等を取り付ける際は、ジョイントを別工具で固定しながら締め付けてください。接続部がゆるんで漏水するおそれがあります。

4 ページ

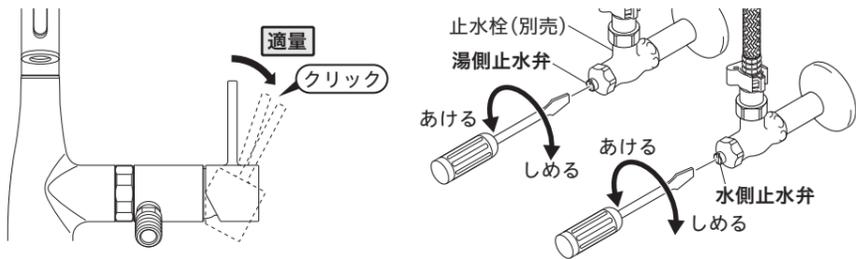
取り付け後の点検

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。
確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

流量の調節方法（イラストは水栓金具の止水栓です）

流量の調節は下記の方法で行ってください。
レバーハンドルのクリック手前で適量（湯側・水側それぞれ5L/min程度）になるように止水弁で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。



5 ページ

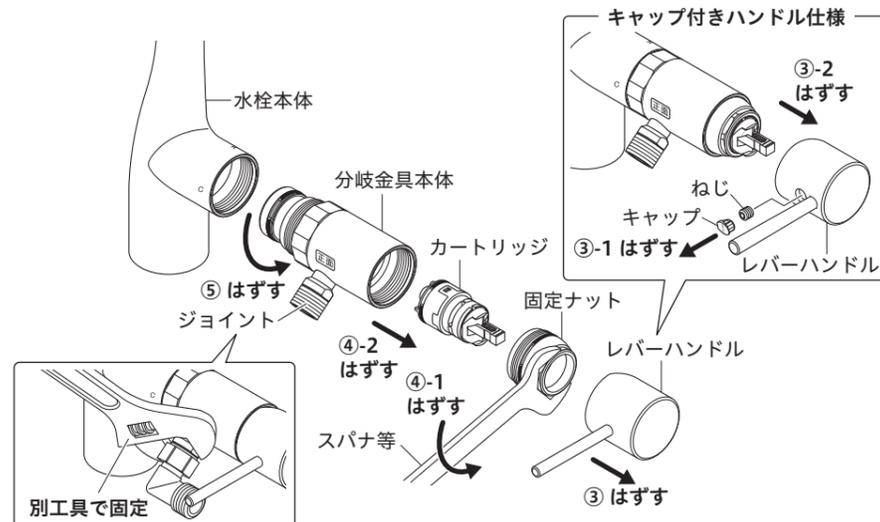
分岐金具本体の取りはずし方法

分岐金具本体を取りはずす場合は、以下の手順で行ってください。

【△注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

- ① 湯水の止水弁（2カ所）または元栓をしっかりとめます。
- ② レバーハンドルを開き、湯水が出ないことを確認します。
- ③ 【キャップ無しハンドルの場合】レバーハンドルを真横に取りはずします。
【キャップ付きハンドルの場合】キャップを取りはずし、ねじをゆるめレバーハンドルを取りはずします。
- ④ 固定ナットをはずしてカートリッジを取り出します。
- ⑤ スパナ等で分岐金具本体をはずします。

【△注意】・カートリッジは無理にはずさないでください。破損するおそれがあります。
カートリッジがはずしにくい場合は、カートリッジを細かくゆらしながらゆっくりはずしてください。
・本体が共回りしないように本体を固定しながら行ってください。
配管接続部が破損し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。吐水口を取り持てずと破損のおそれがありますので、これらは持たないでください。
・ジョイントに接続されているエルゴ等はずす際は、ジョイントを別工具で固定しながらはずしてください。接続部がゆるんで漏水するおそれがあります。



6 ページ

故障かなと思ったら・・・

次のような現象は故障ではありません。
修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	5 ページ 「流量の調節方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	5 ページ 「流量の調節方法」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	5 ページ 「流量の調節方法」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	5 ページ 「流量の調節方法」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—

7 ページ

8 ページ